



ご挨拶

鵬翔流吟友会 会長 梶田鵬翔

ふきのとうが顔を出し、そこはかたなく春の息吹が感じられます。さあ、今年も頑張るぞ！と気合を入れなおしてはみるものの、身体がついていかない年齢を感じることもしばしば……。でも幸いにも回りには心優しい人達ばかりが集って来て下さるので、どれほど有り難く心強いことか！ **感謝・感謝**の毎日です。

若いときには感じられなかった時の流れの無情さや自然の移ろいの中で当たり前であったはずの万物に対する感謝の気持ち、また、人に対する優しさや思いやりも十年足らずの歳月が、もっともっと大きくなあれ。もっともっと優しくなあれ。もっともっと丸く、明るくなあれ。と励まし育ててくれたような気がします。

吟技を磨き極める上では何事にも果敢に挑戦し、精神の鍛錬はもとより自己の栄養となるものをむさぼるように吸収し、すべては自分のために手段を選ばないとまではいかないものの、以前はかなり自己中心的な過激なところもあったように思います。

今は「世のため 人のために」と口癖のように言っていた母の言葉に少しは近づくことが出来ただろうかと自問自答をしている毎日です。私は尾崎知事が高知県を高知家として家族のように愛して、その発展のために東奔西走されて活躍される姿をととても輝かしく愛おしく思います。私も鵬翔流の皆さんが家族のような絆で鵬翔家として、ますます健康で幸せになられますようにご祈念申し上げます。ニュースレター第3号の発刊に寄せて、川添壮貴広報局長、編集を手掛けて頂きました大野正貴さんに大変お世話になりました。

また、原稿をお寄せ下さった皆様に心からお礼を申し上げます。

鵬翔流吟友会副会長 近江鵬聖氏を偲ぶ

川添壮貴



近江さんとの出会いは、彼が1988年に土佐本山ライオンズクラブに入会された時から始まった。近江さんは入会して、翌年にはライオンズクラブの幹事となった。ながく郵便局の局長として局員を指導して築かれた人柄がクラブ幹事役を、会員の多くから嘱望されたものである。以後クラブの会長を2度、地区における役員を4度もされてライオンズクラブ国際協会終身会員になられた。私の所属する地区の会長の立場にお



られた時、親しくお会いしたが、温和で和気あいあいとした運営には、すばらしいものを感じ、会員の皆が協力を惜しまなかったことを想います。

鵬翔流吟友会 5周年記念大会式典で挨拶

2003年、香南ライオンズクラブでの会合の時、詩吟への誘いを受けた。「高須で、漢詩を吟じている教室がある。楽しい教室でお腹から力一杯の声を出す楽しみがある」と言われた。ちょうどその時に、私は高須に住んでいたため、こころよく入会を承諾した。稽古で、彼の澄み切った高音は、彼の人柄を表しているように思えた。その後も、鵬翔流吟友会の会合では、常に微笑みを絶やさずに声をかけて下さった。クラブや詩吟においても絶えず奥様とともに優しく接して下さいました。

また私の健康のことを心配下さり、健康になるための誘いやアドバイスをいただいた。近江さんと長いお付き合いであったが、彼への恩に報いる機会を逸して今日になってしまい、まさかの不慮で、お別れするとは思わなかった。

どうか安らかに、そして中西の敏ちゃんと一杯の酒を楽しんで下さい。

～～鵬翔流吟友会の活動報告～～

平成 30 年度 (2018)

2月4日	総会・新春の集い、新年宴会	オリエントホテル
2月23日	老健施設「ありがとう」慰問	蒔絵台・宇佐教室
3月11日	野市教室 10周年記念大会	赤岡町弁天座
3月17日	高知商業高等学校詩吟講座	高知商業高校
5月6日	春季大会 風雅を楽しむ春の集い	南部健康福祉センター
6月10日	日総連四国地区四国地区コンクール	徳島県石井町公民館ホール
6月16日	高知県漢詩大会	高知商工会館
7月8日	クラウン四国地区吟詠大会	中野庄公民館
7月22日	日本コロムビア剣詩舞四国地区決戦大会	野市ふれあいセンター
8月5日	第9回日本コロムビア四国地区ブロック吟詠大会	奥道後ホテル
8月19日	踊りおどろう会	グリーンホール
9月2日	日本コロムビア吟詠コンクール高知県予選大会	プリンスホテル
9月3日	特別養護老人ホーム「もとちか」文化祭	長浜教室 他
9月9～11日	別府・太宰府 研修旅行	
9月17日	宇佐敬老会	宇佐黒潮センター 宇佐教室
10月21日	のいち高齢者芸能発表会	のいちふれあいセンター
11月3日	秋季大会「風雅を楽しむ秋の集い」	弁天座
11月11日	香南市文化協会舞台芸能発表会	野市ふれあいセンター野市教室
11月18日	第31回日総連四国地区吟詠剣舞詩舞大会	徳島県石井町公民館ホール 常任理事他
11月19日	長浜市民学級文化祭	長浜ふれあいセンター 長浜教室
12月2日	夜須町文化協会舞台芸能発表会	夜須マリンホール 野市教室
12月5日	老健施設慰問 香北町白寿荘	野市教室
12月7日	鵬翔流吟友会忘年会	G&G

平成 31 年度 (2019)

1月17日	高知市文化協会「新春の集い」	プリンスホテル
1月27日	総会・新春の集い	オリエントホテル
2月21日	老健施設「ありがとう」 訪問	蒔絵台・宇佐教室
2月22日	明德義塾中高等学校文化祭 Nippon クラブ詩吟メンバー出演	竜キャンパス
3月1日	長浜一日市民学級	長浜ふれあいセンター 長浜教室

平成 31・32 年度 (2019~2020) 度 役員名簿

会長	梶田 鵬翔	常任理事	中西 鶯翔
会長代行	公文 鵬琇	常任理事	寺岡 颯貴
副会長	飯田 鵬鴛	常任理事	寺岡 颯貴
副会長	山中 清翔	常任理事	山中 紅貴
相談役	大野 正貴	常任理事	岩田 晟光
事務局長	公文 鵬琇	常任理事	横山 熙紫
事務局次長	宝蔵 瑤紫	常任理事	宝蔵 瑤紫
事務局次長	松木 鴻紫		
財務局長	飯田 鵬鴛		
財務局次長	中西 鶯翔		
研修局長	杉本 美翔		
広報局長	川添 壮貴		
大会推進局長	山中 清翔		
大会推進局次長	笹岡 蒼貴		
ボランティア局長	山村 彩紫		
会計監査	松木 鴻紫		



委嘱状授与

平成 30 年度免状交付

所属	氏名	伝	段	雅号	師格	備考
蒔絵台	松代 迪子	初	二	怜紫		特進
野市	西山 博史	中	三	博光		
長浜	岡本 豊	中	四	豊光		
長浜	森田 多喜子	中	四	蓮光		
長浜	川村 たか子	奥	五	櫻貴	講師	
野市	山中 恵子	奥	五	紅貴	講師	
野市	笹岡 正俊	奥	五	蒼貴	講師	
宇佐	大野 正夫	奥	五	正貴	講師	
栈橋	寺岡 亨彦	奥	六	颯貴	講師	
栈橋	公文 包子	皆	七	松翔	講師	
宇佐	中西 淑子	皆	八	鶯翔	準師範	



免状授与

～～風雅を楽しむ春の集い～～

平成 30 年 5 月 6 日、高知市 南部健康福祉センターで、午後 12 時 30 分より開催された。来賓に上本竹永先生、桑名龍吾先生、竹村邦夫先生と後援会長久武邦雄氏が列席された。1 部合吟は「花を惜しむ」野市教室、「不識庵機山を撃つの図に題す」東雲教室、廬山の瀑布を望む」棧橋・はりまや教室、「松竹梅」長浜教室、「春風」高須教室、「江南の春」宇佐・蒔絵台教室が行われた。会員により独吟は 25 題、指導者・役員吟は 6 題、構成吟は、「西南の役、西郷南洲の死」が吟じられた。歌謡吟詠は 5 題。来賓「豪華なる吟と舞では、土佐麗陽会、土佐民話おりゅうしの会、花柳流の方々によって行われた。春の集いは、春の陽気な天候のなか、なごやかな雰囲気の中で行われた。



大会式典にて、県会議員桑名龍吾先生のご挨拶



長浜教室 合吟



構成吟詠

～～風雅を楽しむ秋の集い～～

平成 30 年 11 月 3 日、香南市赤岡町の弁天座において、オープニングに明德義塾中高等学校の和太鼓クラブの「魅鼓（みこ）」の生徒 13 名の生徒さんのより荘厳・華麗な太鼓の演奏が披露された。合吟は初めて男性会員による「武野の晴月」、女性会員により（月夜三叉口に舟を泛ぶ）が吟じられた。続いて会員吟詠 18 題が吟じられた。来賓、上本竹永、桑名龍吾、竹村邦夫、久武邦雄の方々からご祝辞をいただき、梶田鵬翔会長の謝辞の後、来賓吟舞は高吟妙舞、渭山流吟剣舞至道会、土佐麗陽会、四国漢詩連盟、水心流剣詩舞道弘道館により吟と舞が行われた。今回はじめて来賓特別吟として、桑名龍吾、竹村邦夫、久武邦雄氏らにより「元親公初陣の銅像に題す」の連吟が行われた。続いて構成吟詠「天神様菅原道真公を偲ぶ」、歌謡吟詠・華麗なる舞の 6 題が演じられた。特別出演の明德義塾中学高等学校 Nippon クラブ（中国留学生）10 名の生徒達が、振袖・袴姿で、構成吟「広瀬淡窓塾生に贈る」を吟じ、続いてに会長・役員吟詠が吟じられた。最後に会員全員が舞台上上がり、「三百六十五歩のマーチ」を歌い終演となった。



女性会員による合吟



男性会員による合吟



来賓の連吟（左より桑名龍吾、竹村邦夫、久武邦雄、右端山中副会長）



明德義塾中学高等学校和太鼓クラブ“魅鼓“の演奏



明德義塾中高等学校 Nippon クラブの吟詠と参加者集合

～～平成31年新春の集い～～



会場に置かれた遺影右より故近江徳長氏、左端は梶田 博氏

平成31年1月に近江翔聖（徳長）副会長、吟友会にも参加されていた梶田鵬翔会長の義父の梶田博氏が逝去された。その遺影が飾られた高知市オリентホテルの会場で、1月27日に、平成31年度「新春の集い」が開催された。新春の式典として鵬翔流吟友会理念の朗読、会詩の合吟、新年の挨拶（会長）、門下生代表挨拶、来賓の上本竹永、桑名龍吾、竹村邦夫、久武邦雄氏らの挨拶後に、免状の授与、委嘱状の授与が行われた。

引き続き教室合吟が、野市教室「絵の島」、東雲教室「宝船」、栈橋教室「熊本城」、長浜教室「春風」、高須教室「雪梅」、宇佐・蒔絵台教室「立山を望む」が吟じられた。続いて会員吟詠24題が吟じられた。指導者吟詠として5題が吟じられた。来賓吟詠、和歌一題は、六六庵吟詠会高知本部長の上本竹永氏が吟じられ、会長吟詠は「国宝紅白梅 図屏風に寄す」が吟じられた、その後、今年の吟友会の盛会を祈念して同じホテルで交流会が開催された。



梶田鵬翔会長 吟詠



初吟会・会場 オリентホテル



松村 匠紫



岡内扇紫

～～秋の研修旅行・別府・大宰府～～

菅原道真を訪ねて

東雲教室 宝蔵瑤紫

平成三十年度の恒例の研修旅行は・・・と考えていた時に、梶田先生から十一月の弁天座に於ける「風雅を楽しむ秋の集い」での構成吟詠は「菅原道真を偲んで」というタイトル



であることを伺い、それならば、より深く道真を探って見たいという思いから大宰府を訪ねてみることにしました。参加者を募集したものの、二泊三日の日程は行きたくても行けない人もありましたが、貸し切りバスやその他の準備を進める中で、会員はもちろんですが、その家族の

太 宰 府

方々や友人も交えて十四人という多からず少なからずの人数で、思い出に残る有意義な研修旅行となりました。九月九日、この日は温泉の日であることもわかりました。同じ温泉旅館に二泊しましたが、この間、四～五回も温泉につかった方もおり、女性は皆美人になって帰って参りました。

さて、二日目は誰もが知っている有名な道真の漢詩「九月十日」という詩題の丁度その日にあたります。昨日からの小雨も止み、雲の間より朝日が眩しく照り輝き一日中好天気恵まれる中での参拝という幸運に感謝しつつ、地元の観光ガイドさんの案内でゆっくりと説明を聞きながら、往時の道真の姿を思い浮かべながら天満宮を巡りました。

その間には、「東風吹かば〜」の石碑や道真の棺を引いた牛が座り込んで動かなくなったと言う故事からこの地が天満宮となったと言われる牛の像を見たり、京都から道真を慕って飛んで来たという「飛梅」は、長い時を経ても花を咲かせ続けている雄雄しいその姿に感動しました。 笑い転げた初日とは違い、バスの中では研修会にふさわしい詩吟の勉強もしながら、同行された運転手さんも「昨日とは違って皆さん真面目ですね。別の人達が乗っているのかと思いましたよ。」と感想を話してくれました。

この研修旅行には今年一月に急逝された近江鵬聖さんも参加されており、始終にこやかな笑顔で「参加出来て嬉しい。楽しい。来て良かった。」と何度も何度も感謝の言葉をのべておられました。バスの中でも「名槍日本号」のお話を得意気に話され、来年のコンクール挑戦への意欲も、また決意表明もされていました。これからもあの笑顔で会の行く末を見守り続けて下さる事でしょう。 お陰様で九月の九、十、十一の三日間の研修旅行は本当に楽しい笑顔の溢れる有意義な研修旅行になりました。今後も仲良く楽しく梶田先生のもとで精進して参りましょう。皆様のご協力、有り難うございました。

老健施設 NPO 法人 “ありがとう” 訪問



平成 31 年 2 月 21、午後、高知市横浜西町にある “ありがとう” 訪問交流会を行った。3 年ほど前から、年に 1 回、会長と宇佐・蒔絵台教室の会員が訪問している。カラオケ装置も整っており、10 数名方々と一緒にカラオケの伴奏で高齢者が歌える歌、ふるさと、赤とんぼ、箱根八里を合唱した。会員は歌謡吟詠、詩吟を吟じた。

1 時間ほどの短い時間であったが、皆様、渡されたプリントやカラオケの伴奏で大きな声を出して歌い、また会員の詩吟にも、よく聴いて下さり、楽しい交流会であった。

明德義塾中・高等学校文化祭で Nippon クラブが詩吟を吟じる



中国留学生で明德義塾高等学校に在学している生徒は、Nippon クラブというサークルを作っており詩吟の稽古をしている。2 月 22 日に開催された生徒達が運営する文化祭に参加したいという彼らの希望で、特訓をして、桂林荘雑詠諸生に示す（その一）、（その二）を吟じた。竜キャンパスの中庭に学生たちが特設した舞台上、ナレーションも上手な日本語で行い、吟も上達して、観客生徒から

大きな拍手をもらい、皆満足な笑顔を浮かべていた。今後の上達を期待したい。

やっと吟ずることへの執着が・・・(吟との出会い、そして新たなる挑戦へ)

野市教室 山中紅貴

40年の教員生活のなかで、小学校高学年を担当することが多く、音楽の授業では音階は西洋音階であった。ピアノのほか器楽演奏が好きであったから、児童を引率して、たびたび当時の香美郡連合の音楽会に出演した。しかし合唱に取り組むことは、あまりなかった。

退職後、縁あって詩吟の世界に足を踏み入れた私です。それまで詩を吟ずることは知りませんでした。鵬翔流吟友会に入会して二年目に香南市文化協会に入り、野市町の代表者として、香南市地域の教員時代の人脈とのつながりを大切に、今では地域の芸能文化や活性化に貢献しております。

このような活動をしてきたが、吟じることの向上は二の次、三の次としていた私の吟詠力を問われると、富士山に亀が登るように遅々としておりました。西洋音階に慣れ親しんできた私にとって、吟の音階や振譜は、とても難しく、初めは理解しようとしませんでした。

しかし、鵬翔流吟友会に身をおいて入る以上、何とかしてみようと心をいれかえ詩吟に取り組み始めました。今では嫌っていた吟の音階も理解でき、吟のボードで高音も発声できるようになりました。背筋、腹筋、丹田（お腹の下）などの身体での発音方法や吟ずる際の身体状況など、梶田先生や公文先生の微に入り細に入りのご指導のもと、遅まきながら理解が深まり、言葉表現も少し可能になり始めたような気がしています。これから苦手なことへの本当の挑戦です。恵子の味で作者の心が表現できる日を夢みて精進を続けたいと思います。

日に精進すれど 儘（まま）ならず 道は遥かな 吟道の真髄（こころ）

ひとこと

副会長 飯田鵬鶯

詩吟を学ぶ二十数名のお仲間、こんなよい方ばかり集まった団体があるのでしょうか。おひとり おひとりが、十人くらいの力を発揮し吟詠大会も、見事に成功をおさめています。きっと、皆さん、梶田会長を尊敬し、お人柄を慕うからでしょう。そのなかのひとりで居られることを幸せと感じております。どうぞ、皆様のお身体を大切に、いつまでも鵬翔流吟友会のお仲間、お互いに精進してまいりましょう。

呼吸法についてひとこと

棧橋教室 寺岡颯貴

「腹式呼吸」、聞きなれた言葉ですが、詩吟を吟ずる人にとって、非常に大切な呼吸法です。その方法とは、私の場合、まず上向きに床に寝ます。全身の力を抜きリラックスします。立っておこなっても良いですが、余分な身体力を抜くために寝て行います。鼻からの呼吸でゆっくり息を吸ってお腹を膨らします。お腹いっぱい吸ったら息を止めた状態で腹部周辺を緩めず締めたままの状態を保ちます。この状態を保息状態と言います。次に鼻呼吸により胸（肺）の息（空気）をいれます。胸式呼吸です。息を取ることができたら OK です。腹式呼吸が出来ているということです。

詩吟は詩語読み、子音から母音へと腹筋により母音割をします。次に音を引いて、また

揺（ゆり）を入れて長く息を吐きつづける作業をしなければなりません。そのためには一度に多くの息を体内に蓄える必要があります。ですから、腹式呼吸法を身につける事はとても大事です。もし、二度目の息を取ることが難しかった時は、つぎの方法の練習を試みて下さい。まず上向きに寝ます。全体のちからを抜いてリラックスします。お腹を膨らませながら鼻呼吸により素早く息を吸います。一度とめて（2～3秒）ゆっくり口から息を吐き切ります。この操作をくりかえし約10回くらい行います。これが一セットとして、3回くらい行います。

腹式呼吸に優れた点が多くありますが、一部紹介します。

- (1) 腹式呼吸は腹部を使って素早く多くの空気を吸うことができます。
- (2) 身体の余分な力を抜いて腹部と胸部、腰と足、身体の下半身を使うため、高音の響き、低音の力強さを表現することができます。音量を豊かにします。
- (3) 一定の音量で長く声を出しつづけることができます。
- (4) 強い声や弱い声をうまく調整することができます。

このように多くの利点があります。腹式呼吸の方法を修得し詩吟に、より深い味わいと詩情をほしいままにできたら、どんなに素晴らしいことでしょう。

近江さんとともに吟詠の稽古

宇佐教室 大野正貴

宇佐教室は、2年ほど前から蒔絵台教室で吟詠稽古が行われるようになった。同じ頃より近江さんが奥様と一緒に蒔絵台に来られた。脳卒中で療養後、昨年秋頃には、杖も持たず顔も日焼けされてお元気になられた。天気の良い日には庭の手入れで、梯子を使っているとされた。腕の力は昔のままだと回復を喜んでいた。吟詠は4本で、私と同じであり、梶田先生の御指導の後、必ず「では近江先生に模範吟詠をー」と言われて私の吟題を吟じて下さり録音に取った。私の録音機には近江さんの吟詠がたくさん残っている。私たちの教室には、中西さんがお花を持参して下さり、ちょうど1時間を過ぎた頃、松代さんがお茶の準備をして下さり、楽しい休憩時間になって近江さんとの会話も弾んだ。

近江さんは1回目に吟ずる時は「昨晚は少し睡眠が足りなかった」と言われ、2回、3回と吟じると声量もでてきて、ご自身も満足の笑顔になった。12月に入って長浜教室と同練習の時には、電動車椅子で来られた。その頃になると、以前と変わらない微笑みがたえない近江さんになっていた。研修旅行で九州に行けたことが健康への自信がついたようである。今秋、中国への交流コンサート計画の説明をするために、1月5日の役員会出席した折も、「中国行きのために体力をつけねば」と言われたばかりで、突然の他界に心からご冥福をお祈りします。

ニュースレター3号 2019年3月 発行

鵬翔流吟友会広報局長
編集

川添壮貴
大野正貴